



居宅介護支援事業所おんじゃく 主任介護支援専門員
 熊本YMCA常議員 みなみ運営委員 岩永 福子 さん

会社を辞めて、福祉の世界へ

熊本YMCAの書庫に一冊の本があります。そのタイトルは『とびだせ車イス』。当初「福祉を考える会」として活動していたYMCAのユースボランティアグループが「青い芽」と名称を変え、1985年に発行したものです。当時、作成に関わったボランティアの一人が岩永(旧姓 甲斐) 福子さん。学生時代に子どもたちのキャンプリーターとしてYMCAと出会った岩永さんは大学で英文学を学んだ後、商社に就職。会社勤務の傍ら、YMCAで「青い芽」の活動に参加していました。

「青い芽」は、障がい者が積極的に、かつ自由に街へ出かけられるためのガイドブックを作ろうというねらいで、熊本市内80カ所以上の行政機関、ショッピング施設、宿泊施設などを調査。多目的トイレがほとんどなかった時代、トイレは和式か洋式か、通路の段差は何cmかなど調査項目は50以上にわたり、5年の歳月を費やして完成したのが『とびだせ車イス』でした。

発行当時の1980年代、日本の高齢化がかって例を見ないスピードで進行することを予測し、厚生省が新たな国家資格として「社会福祉士」「介護福祉士」の認定制度を検討していたことから、YMCA学院の「老人ケア科」新設のプロジェクトが立ち上がります。1988年に岩永さんを含む第一期生約40名が入学。勤めていた会社を辞め、30歳で介護福祉士になる

1985年発行
 「とびだせ車イス」



「もうひとつの居場所」と役割

道を選んだ岩永さんは当時の心境をこう語ります。「『自宅で逝きたい』と言っていた91歳の祖母の願いを叶えて自宅で看取ることができました。YMCAでのボランティアの経験と、最期の迎え方を自ら選択する大切さを実体験したことが、職業として福祉の道へ進むことを後押ししたんだと思います」。

一人ひとりと向き合う

介護福祉士の資格を得た岩永さんは、熊本市内の高齢者施設で11年働いた後、現在は美里町の病院に併設する居宅介護支援事業所でケアマネジャーとして勤務しています。介護や支援が必要な人や家族の相談に応じ、一般の人には分かりづらい制度や、専門機関のサービスを結び付けて対象者にあった適切なケアプランを作成、行政や施設と本人・家族との連絡調整を行うのがケアマネジャーの仕事です。

「私の祖母のように『最期は自宅で』と望む人は少なくありませんが、介護する家族の負担などを考え、自分の意思で『施設で最期を迎えたい』と望む人もいます。対象者一人ひとりの考えや条件、病状など様々な異なる要素が背景にあるので、型にはまった対応というのはありません」。介護福祉士の認定制度が始まった直後から現場の最前線で支援を必要とする人々と向き合い、今では管理職として若手育成の責任も担う岩永さんですが、姿勢は常に謙虚で真剣です。「仕事にやりがいを感じつつも『本当にこの対応でよかったんだろうか』という思いが常に頭をよぎります。特に今はコロナ禍で、施設にいる高齢者は家族に会うこともままならない状況です。大きな制約の中で私たちが何ができるか、模索する毎日です」。

今に続く道

所属する企業や職場をコミュニティとする日本特有の「家族型組織」が多かった1980年代、20代ですでに職場ではない「もうひとつの居場所」と役割をYMCAで見つけていた岩永さん。現在もYMCAの運動を支えるボランティア会員として関わり、YMCAみなみセンターを拠点とする地域奉仕や国際協力など、福祉とは別の分野でもボランティア活動を続けています。「頼まれたら『はい』と応え、40年続けてきた感じです。YMCAを通じて自分がいろいろな人とつながり、成長させてもらったという思いがあります。今の若い人たちにもそのような経験をしてほしいですね」。

仕事以外の時間や人間関係に価値を求めたり、「パラレルキャリア」のようなライフスタイルが目立ってきたのは近年のことですが、岩永さんのように早くから、そのような生き方をYMCAで実践していた人たちがいたことが分かります。

『とびだせ車イス』のあとがきに27歳だった岩永さんの手記が残されています。「この本の1ページはまさに私の青春の1ページなんです」。岩永さんが綴るページは今に続いています。



▲青い芽の仲間たちと

Pickup

「きれいにできたね」
 リフレスおおむた
 親子でクリスマスリース作り



「サンタさんありがとう」
 こどもえいごスクール
 クリスマスウィーク

みんなでお祝い
 永草保育園
 クリスマス発表会



I n f o r m a t i o n

行こう 見よう 深めよう

1月19日~31日

YMCA年末募金 チャリティプログラム

チャリティ
×
楽しむ

YMCA年末募金の一環でチャリティプログラムを開催します。益金は子ども、若者支援、国際協力、災害支援等に用いられます。各プログラムの時間、参加費等の詳細は各センターにお問い合わせください。



	日 程	内 容
ながみねファミリーセンター チャリティウィーク Tel 096-385-0676	1月19日(火)~25日(月)	RDチャレンジ、くじ引き、チャリティたいそう教室(23日)、ミニバザー(23日) たいそう教室のみ要予約▶
みなみセンター チャリティフェスタ Tel 096-378-9370	1月24日(日) 10:00~15:30	食品サンプルづくり、ペーパークラフト、科学じっけん、スポーツ体験、カヌーミニミニ大航海、ミニのみの市など Web申込受付中▶
むさしセンター チャリティプログラム Tel 096-248-6334	1月24日(日) 10:00~17:00	フェアリーYっこ(新体操ボール・リボン体験)、かけっこ教室、逆上がり教室、親子サッカー、親子ZUMBA、水中シェイプ、キーホルダー作り Web申込受付中▶
中央センター チャリティプログラム Tel 096-353-6391	1月31日(日) 11:00~15:30	ひなまつりの飾り作り、英字新聞でエコバッグ、セルフフレクソロジー講座。電話・窓口受付中です。

1月30日 Saturday

熊本バンド結盟145周年 早天祈祷会リモート開催

キリスト
×
祈祷会

日本におけるキリスト教プロテスタントの源流の一つとなった熊本バンドの結盟145周年を記念して早天祈祷会を行います。

今年は感染症拡大防止のため、リモート開催となります。当日、ライブ配信をいたします。花岡山での参加はご遠慮ください。

ライブ配信▶



回 1月30日(土) 6:30~7:30

奨励 岩井善太さん(熊本大学名誉教授)「志を受け継ぐ」

回 Tel 096-285-1717 (担当/佐藤)



昨年の様子

1月31日 Sunday

児童福祉教育科 卒業発表会

学習
×
発表

2020年度に卒業するYMCA学院の児童福祉教育科22期生の集大成として、卒業発表会を行います。今年のテーマは「糸」。創作劇、合唱、ダンスなど、子どもたちに向けて、ご家族皆で楽しめる発表会です。感染症拡大防止の措置をとりながら実施します。今年はオンライン配信も検討中です。詳細はYMCA学院Webサイトでお知らせします。

一般公演

回 1月31日(日) 13:00開場 13:30開演

場 熊本市植木文化ホール
(熊本市北区植木町岩野238-1) 回 無料 回 YMCA学院 Tel 096-353-6393



いまこそ、いじめについて行動しよう ピンクシャツデー

新型コロナウイルス感染症への恐れは、わたしたちの生活に不安をもたらし、心ない偏見や差別を生み出しています。このような時だからこそ、いじめの構造に目を向け、一人ひとりが「傍観者にならない」、「自分ではない誰かのために」行動しませんか。YMCAはそのようなポジティブで前向きな「よくなる」の連鎖を大切にします。



YMCA各センターでは、ピンクの服や小物を身につけることを呼びかけるなど、様々な取り組みを行います。子どもプログラムでは、ピンクシャツデーについて学び、いじめについて考える時間をもちます。

今年のピンクシャツデーは2月24日です。この機会に皆さんも一緒に考え、アクションを起こしませんか？

回日時 回会場 回内容 回参加費 回定員 回参加条件 回持ち物 回対象 回主催 回締切 回申込 回問合せ 回その他

岡 総主事の タラント Vol.76



すべてに感謝

新しい年を迎えました。この一年は新型コロナウイルスによるパンデミックが、あたり前の生活様式を大きく変化させました。

生きていけばよい時ばかりではなく、試練の時が必ずあります。辛く苦しい時、現実から逃げ出したい思いになります。そのような時、聖書は

私たちに「現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足らないとわたしは思います」(ローマの信徒への手紙8章18節)と語っています。

私事ではありますが義父を昨年10月に突然天に見送ることになりました。妻は6年余り東北地方の実家に里帰りし、介護をしていました。次に会えることを楽しみにしていた矢先の出来事でした。妻にとって、コロナ禍での父との生活は大変なこともありましたが、充実した時間でもありました。病院はもとより多くの支えがあり、踏ん張ってこられたのだと思います。

私たちは、生きていますと思っていますが、生かされている存在であると知ることで初めて周り

が見えるのかもしれません。家族や友人、仲間がいての自分であり、すべてに感謝と尊敬の念を持つこと、隣人はもとより自分自身へも感謝の心を向けることで前を向くことができるのだと思います。

この一年、熊本YMCAの働きにおいても様々な困難に直面しつつ原点を見つめなおす機会を与えられました。会員の皆様のお支えと神様に守られてきたことに感謝いたします。2021年が希望に満ちた年となることを願います。YMCAは、心あらたに夢を抱き、すべてに感謝し、神様から託された運動を力強く進めてまいります。皆様のご支援を今年もよろしくお願い申し上げます。

t a l a n t o n

R | E | P | O | R | T

[9月5日⇒12月17日]

災害支援

自分にできることを 熊本豪雨ボランティア派遣

7月の熊本豪雨を受け、災害ボランティアとして派遣したYMCA学院の学生らに続き、9月～11月は毎週土曜日に、12月からは現地の要望に応じて球磨村での支援活動に取り組んできました。

6～8名の少人数単位でボランティアセンターより各所に派遣。ほとんど手つかずの廃屋状態の個所もあり、再建か撤去か、住民の皆さんが悩んでいる様子がひしひしと伝わってきます。生活の基盤を失った皆さんの苦しみを感じながら、自分たちができるだけのことをしようという思いを参加者全員が共有しています。

YMCAの会員のほか、大学生や社会人の一般参

加もありました。10月以降ほぼ毎回参加している廣重佳志子さんからは「なじみのメンバーと参加する中で、自分にできることが増えていくような気がした。『自分でも役に立てるかも』と思えたので続けることができた」、金盛文子さんからは「皆さんと協力して作業を終わらせていく喜びがあり、得るものが大きかった」と感想が寄せられました。

達成感と仲間意識は、まさにグループワークであり大人のデイキャンプとも言えます。引き続き、YMCAにできる支援を考えていかなければと感じています。

職員 松田誠一



子ども

子どもたちの今を大切に 子育て広場わいわいを開催

乳幼児と留学生、専門学校生、外国人講師など、様々な人との出会いを提供してきた「子育て広場わいわい」は熊本市子どもの未来応援基金を受け開催しています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、行動が制限される中、開催に迷いもありました。しかし、このような時期だからこそ、親子でほっとひと息つく時間を提供できればとの思いから、感染拡大防止に努めながら、YMCA中央センターを会場に、12月3日(木)、7日(月)、17日(木)の3回にわたり開催。外国人講師による英語あそびや、YMCA学院で保育

を学ぶ学生たちによる絵本の読み聞かせ、リズムあそび、クリスマス制作など、盛りだくさんの内容で開催しました。

参加した保護者からは、「久しぶりにイベントに参加できた」「子どもが楽しそうだった」「また来たいです」という声が多く聞かれ、子どもたちの「今」を大切にしたい保護者の思いを実感することができました。子どもたちの笑顔があふれ、コロナ禍で子どもたちとふれ合う機会が少なかった学生たちにとっても、すばらしい学びの時間になりました。

職員 西本愛



募金

コロナ禍もアイデアを出し合って YMCA年末募金

2020年12月6日(日)、上通アーケードのびぶれす広場前でYMCA年末募金の街頭募金活動を実施しました。様々な行事が実施を見送られる中、「形を変えても行えないだろうか」という意見が上がり、会場を前年の16カ所から1カ所に絞り実施することになりました。例年、街頭募金では子どもたちによる呼びかけが大きな力になっています。今年はコロナ禍で子どもたちの呼びかけができないため、YMCAの幼稚園、幼児園の園児の協力で事前に撮影した動画を街頭で再生しながら募金活動を行うことができました。

また、毎年各センターで開催しているYMCA祭(バザー)も、代わりにミニバザーを長期開催したり、近隣の関係先に募金箱の設置を呼びかけたり、換金できる資源の回収をしたり、チャリティーオークションを実施したりと例年にない取り組みやアイデアが生まれました。

1月2日の時点で6,373,414円が集まっています。まだまだ多くの皆さんの協力が必要です。YMCAを通じて社会貢献ができることを友人、知人、関係先に呼びかけていただくようお願いします。

職員 牛嶋加佐喜



若者

大阪×熊本 留学生らがオンライン交流

12月15日(火)、YMCA学院ビジネス総合学科1・2年生の37名が大阪YMCA国際専門学校国際ビジネス学科2年生とオンラインによる交流授業を行いました。日本人の学生と留学生が共に学んでいる両学科。10カ国から12名が参加した大阪側からは、「ソーシャルエンタープライズ」という授業の中で、2020年7月豪雨災害被災者支援のためにファンドレイジングに取り組んだ3グループがそれぞれ発表しました。

UNICASEというグループは、折りたたみ式マスクケースを仕入れ、オリジナルロゴと復興支援Webサイトへ誘導するQRコードを付けて販売した事例を

発表しました。グループ名には、もはや必須となったマスクを清潔に携帯するために“You Need Case”と“U N(and) I CASE”という想いを込めたことも紹介されました。

熊本側からは、中国出身の留学生がクラスを代表し、二日間にわたり被災地に赴き実際に取り組んだボランティア活動の様子を写真や動画を交えて発表しました。交流授業終了後、ネパール出身の熊本の参加者は「大阪と熊本は遠いですが、つながっていると感じました」と感想を述べていました。

職員 尾道一幸



第34回体操フェスティバル

11月29日(日)、中央センターで体操フェスティバルを開催しました。感染症拡大防止に努めながら行った今回は64名の子どもたちが参加。日ごろの練習の成果を発表しました。



熊本YMCA新会館 春完成

2020年6月よりスタートした、熊本市中央区段山の熊本YMCA新会館工事も11月下旬には上棟、いよいよ内外部工事の段階です。YMCA関係者はもとより、地域の皆さんからも「新しい建物で地域とYMCAの協働プログラムをやりましょう!」など完成を待ち望む声をいただいています。また、YMCA学院建築科では専門的な視点で定期的に現場見学会を実施。自分たちが来年度から勉強する建物が、着実にその姿を現すことで期待に胸が膨らみます。

2021年4月の開館に向けて、専門学校やランゲージスクールなどを中心としたグローバルな人材育成、子育て世代のサポート、シニア層の健康増進など、地域の皆さんの活動や交流の拠点となるようなプログラムも企画しています。

完成まであと数カ月、建設に携わっていただいている皆さんの安全を祈願しながら、今後も地域に開かれたYMCAを目指します。



鉄骨5階建て。1階にはエントランスと防災備蓄倉庫、2階に総合受付、3～5階に専門学校・日本語学校教室・ホールを有し、屋外テラスや太陽光ソーラーパネル、電気自動車充電設備も備える(2020年12月25日撮影)

わたしと聖句

ヨハネによる福音書11章40節

「もし信じるなら、神の栄光が見られると、言っておいたではないか」

聖書の言葉に力づけられて

16年ほど前、ロスアンゼルスで牧師をしていました。しかし、義父が入院、そして召されるということになり、急遽、日本に帰ることになりました。息子が言葉が出ず、日本での診断を兼ねての帰国でもありました。息子の診断は、広汎性発達障害(自閉症)ということでした。義父の葬儀だけでも大変なのに、息子が弱さを担っていることを知り、呆然といたしました。

ですが、試練というのは波状攻撃のようにやってくるものです。ロスアンゼルスの高齢の教会員

日本基督教団 熊本白川教会
富山 信

が召されたので帰ってきてくれないかとのことでした。そして、さらに、他の教会員も危ない。私は悲しみを胸に抱えながら、一人、アメリカへ帰って行きました。迎えが来るというので私は空港のベンチに腰掛けて待っておりまして。言い知れぬ悲しみが胸に突き上げ、私は涙を流しました。ただ、「主よ、憐れんでください」と訴えるばかり...

でも、その時です。「もし信じるなら、神の栄光が見られると、言っておいたではないか」という力強い主イエス・キリストの言葉が響いてきました。雷鳴に打たれたような衝撃で、私の中に信仰が注がれてきたのです。ああ、大丈夫だ。イエス様が守って下さる。私は深い安堵を経験しました。

その後、困難は続きましたが、一つ一つと乗り越え、強くされていきました。そして、事実、息子を通して神様はその約束を果たして下さっております。ハレルヤ! 主の御名を崇めます。

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)

発行人／岡 成也 編集協力／pros creative
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



Facebook

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2020年度基本聖句

テサロニケの信徒への手紙一 5章13節
愛をもって心から尊敬し 互いに平和に過ごしなさい。